

第2章 まちの将来像

希望の大地から未来の花咲くいわいずみ

私たちのまち岩泉は、春夏秋冬を通して美しい装いを見せる豊かな自然に恵まれています。その自然は人々の心を和ませるとともに、明日への希望を抱かせるものでもあります。また自然は、生き物に欠かすことができない酸素や水やさまざまな栄養分を供給し、木々を育て、生き物を育み、そして木々は大きな樹となり特色のある様々な花を咲かせます。

平成22年に策定した「新岩泉町まちづくり総合計画」では、このような岩泉町の豊かな自然の木々の息吹を元に、「大きな樹が育ち明日が見える岩泉」を掲げ、4つの大きな森林（もり）づくりをまちづくりの大きな柱に据えて事業展開を進めてきました。それらの施策は、少しずつ成果の花が咲きつつあります。

また、平成という時代の終わり、令和という新しい時代が幕を開けた今、度重なる大災害を乗り越え、自然にあふれた緑豊かな岩泉町の再生と、岩泉町の新しい時代を見据えた将来像を実現するための取組を進めていく必要があります。深刻化する人口減少や高齢化率の上昇、頻発する異常気象など、より厳しさを増す時代環境の中ではありますが、産業振興や少子高齢化などの諸課題に挑戦し、一歩でも前に進もうとする歩みの中にこそ、明るい光が見えてきます。

そこで、新岩泉町まちづくり総合計画で掲げた「大きな樹」の土台となる自然豊かで希望溢れる大地を再生し、町全体、そして町民一人ひとりそれぞれの未来を創る多様な花が咲き誇るような岩泉町を目指すため、まちの将来像として『希望の大地から未来の花咲くいわいずみ』を掲げます。

